



1

2023
(令和5年)
No.209

門松作りとひやくまんさんとの交流

12月16日(金)、中甘田保育園の年長児9人が、岩田の岩野豊さん・幸子さんに門松作りを教えてもらいました。県のマスコットキャラクターひやくまんさんも登場し、一緒にひやくまんさん小唄を踊り、楽しい時間を過ごしました。中甘田保育園は3月31日をもって閉園となりますが、園での素敵な思い出になりました。



INDEX

	ページ
年頭のあいさつ	2-3
志賀町子ども議会 2022	4-5
必要な情報は受け取れていますか？	6-7
令和3年度分確定申告	8-9
まちかどNews	14-15



自治体広報紙配信
アプリ「マチイロ」
インストール
はこちら

迎春

謹んで新年のご挨拶を
申し上げます。
町民の皆さまには、
輝かしい新春をお迎えのことと
心からお慶び申し上げます。



志賀町長
小泉 勝

年頭にあたって

昨年を振り返ってみると、能登地方を震源とする震度6強の地震が発生し、その後も震度1以上の群発地震が続いているほか、本町でも度重なる大雨や台風で避難指示を発令するなど災害が多い年でした。

国内経済では、長期化するウクライナ情勢や急激な円安による原油・原材料の価格高騰が物価の上昇を招き、国民生活に大きな影響を与えました。さらに新型コロナウイルス感

染症は、夏場をピークに猛威を奮い、未だ収束の兆しが見えないまま年を越しました。

このような中、町では感染症対策のほか、防災対策の強化や物価高騰に係る町民生活や事業者への支援などに鋭意取り組んできました。

今年も卯年です。兎には跳ねる特徴があるため、その姿から、「飛躍」「向上」を象徴するものとされています。他にも「植物の成長」という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年とも言われています。

コロナ禍で大きく変容する社会経済情勢ですが、今年もさらに志賀町が飛躍し、成長できるように、一つ一つの施策にスピード感を持って取り組んでいくので、町民の皆さまのご支援とご協力をお願いします。

ウィズコロナ社会への対応

新型コロナウイルス感染症は、再び増加傾向にあり、季節性インフルエンザとの同時流行が懸念されています。

このような中、国では新型コロナウイルス感染症を感染症法の「2類相当」からインフルエンザ並みの「5類」へ見直す議論に入り、昨年10月には国内へ

の入国規制も大幅に緩和するなど、通常の社会経済活動を活性化させています。

この現況を踏まえつつ、本町でも県の新型コロナウイルス感染症対策本部からの指針を順守し、イベントの開催や文化活動などに感染症対策を講じながら、積極的に取り組んできました。

昨年は、「イルミネーション」や「花火大会」「文化祭」などを、ほぼ通常の規模で開催したほか、以後予定しているイベントなども同様に実施します。

今後も、国や県の動向に注視し、適時適切な対策を講じながら、本町における社会経済活動の活性化を図っていきます。

インバウンド需要を見据えて

昨年は、フランスのパリで開催された「北前船寄港地フォーラム」に参加してきたほか、ホストタウン交流事業として、アゼルバイジャン共和国を訪問し、国際交流を深めました。パリでは、現地の旅行会社で、



盛大に開催された「増穂浦ときめき花火大会」

本町の観光をPRしてきたほか、アゼルバイジャンでは、友好協定を結ぶバクー市のハタイ地区や地元オリンピック委員会などを訪問し、地元ショッピングモールでの特産品ころ柿の紹介や天友太鼓による和太鼓の演奏を披露するなど、本町の食の魅力や文化を紹介してきました。

今後、国の入国規制の大幅緩和を受け、インバウンド需要の高まりが見込まれることから、



アゼルバイジャンでの和太鼓披露

このような国際交流や観光デジタルプロモーションを通じ、多くの外国人に志賀町を知ってもらい、訪れていただくための施策を進めていきます。

トキの放鳥受入れに向けて

昨年8月にトキの野生復帰を進めるための候補地に、本町を含めた宝達志水町以北の9市町が選ばれました。

国の特別天然記念物コウノトリが本町の自然豊かな環境で繁殖したことが追い風となったのが、今後のトキの放鳥受入れにつながるものと思っています。

また、能登地域トキ放鳥受入推進協議会からは、令和8年度以降の放鳥に向けて、トキ放鳥推進ロードマップやトキ放鳥推進モデル地区の選定基準が示され、モデル地区の選定は、地域の理解を得た上で、今年度中に選定したいと考えています。

しかし、放鳥受入れは、トキが餌場や繁殖場所として本町を選ぶことが前提です。まずトキの住みよい環境を整備し、農薬や化学肥料の5割削減等による影響を考慮したモデル地区への支援などを行っていききたいと考えています。

豊岡市のコウノトリ、佐渡市

のトキなど、国の天然記念物と掛け合わせたまちづくりが全国にあります。今後とも「コウノトリが巣立つ志賀町」、「トキが飛び交う志賀町」として、豊かな自然と共存できるまちづくりに取り組んでいきます。

若者の移住定住を促進するために

平成27年度から分譲を開始した定住促進住宅地「みらいとうぶ」は、一昨年の5月に完売し、移住定住の促進、人口減少の抑制、さらには民間企業が「みらいとうぶ」に隣接する土地を開発し分譲することにもつながるなど、一定の成果がありました。

「みらいとうぶ」完売後も、新たな定住促進住宅地についての問い合わせが多くあり、今後也需要が見込めるとの判断から、現在すばる幼稚園横にDブロックとして、10区画の造成工



すばる幼稚園横の分譲予定地

事を進めており、来年度早々の分譲を考えています。

また奨励金制度の拡充も検討し、さらなる移住定住の促進につなげていきたいと考えています。

さらなる交流人口の拡大

スポーツは、私たちに多くの勇気と感動を与えてくれます。

昨年開催されたサッカーワールドカップでは、日本代表の気迫あふれる素晴らしい戦いぶりを見せ、感動の渦に包まれました。

以前から私は、町づくりの一つのビジョンとしてスポーツによる交流人口の拡大を公約に掲げていましたが、スポーツは、人々に勇気と感動を与えるだけではなく、地域への社会的・経済的効果を創出し、持続的なまちづくりや地域の活性化に資するなど、大きな可能性を秘めています。

老朽化が進んでいた志賀町野球場を改修し、より観戦しやすくなるため観覧席を新設し、ベンチやスコアボードをリニューアルするなど、本年3月の竣工を目指しています。

このように、充実したスポーツ施設が集中する志賀の郷里ゾート周辺で、スポーツ合宿や

全国から参加者を呼び込むスポーツ大会の開催などを町として支援し、地域の活性化やスポーツ交流による競技力の向上も図っていきます。



改修中の志賀町野球場

さらに、富来地域では、道の駅周辺にニュースポーツパークを整備し、企画・設計についてはスケートボードを始めとしたアーバンスポーツで多くの日本代表選手が所属する大手企業の監修を予定しています。

また、道の駅とき海街道のりニューアルや世界一長いベンチの大規模改修も予定し、その前段階として、昨年10月に道の駅とき海街道内に「さくら貝資料館」がオープンしたところです。

道の駅周辺エリアは、本町の観光の中心として再整備を図り、スポーツ交流の場としても

活用し、賑わいの創出につなげていきたいと考えています。

このように、志賀地域、富来地域それぞれの特性を活かした施策を展開して、さらなる交流人口の拡大を図っていきます。



令和4年10月にオープンしたさくら貝資料館

結びにあたり、本年が町民の皆さまにとって、夢と希望に満ちた一年となりますよう、心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつとします。

令和5年 元日

志賀町子ども議会

しかチャンネルで放送中!



質問1 大岡 未来

イベントの開催について

町をさらに盛り上げるため、イベントの開催を増やし、町内小・中・高等学校と連携し、吹奏楽部の演奏や生徒がスタッフとして働くなど、若い世代の活力を利用する必要があります。町の大きな財産である自然の「海に沈む夕日」や街灯が少ないからこそ映える「星空」のPRはどうでしょうか。

答弁: 町でもイベントを徐々に実施し、昨年は3年ぶりに富来小・中学生が、世界一長いベンチのペンキ塗りをしました。その他、陸上自衛隊音楽隊コンサートや能登中核工業団地SDGs祭りでは、志賀中学校吹奏楽部が素晴らしい演奏を披露しました。来年度も自衛隊音楽コンサートや世界一長いベンチの全面改修を予定し、完成イベントには、町の「海に沈む夕日」や「星空」が鑑賞できるような企画を考え、若い世代などとタイアップしていきます。



町の将来を担う子どもたちが議員となり、提案する「志賀町子ども議会」。

11月21日(月)、町議会議場で初めて開催され、志賀中学校の3年生18人が参加しました。議長役の2人が交代で議事・進行を務め、生徒13人が登壇しました。議会の様子は、オンラインで町内中学校につながり、学校にいる生徒も視聴しました。ここでは、質問・答弁の一部を紹介します。



古川 悠人



議長役 徳楽 絢音



質問5 橋本 隼和

外国人を受け入れるときの対策について

近年グローバル化が進み、外国との関係をもつことが一番大切な時代です。その中で、外国人が住みやすい町づくりが必要です。外国人を受け入れる時の町の対応を聞かせてください。

答弁: 現在10カ国190人の外国人が町に住民登録しています。役場窓口には翻訳機を設置し、ごみの分別パンフレットは外国語版で町ホームページに掲載しています。羽咋都市で連携し、町国際交流協会が日本語教育推進の人材育成研修も受けています。さらに、能登中核工業団地内の各企業で働く技能実習生と、スポーツ大会や救命救急講習などの交流をしています。

今後、外国人のさまざまなニーズに対応できる支援ボランティアの育成や、行政と外国人が情報共有できるネットワークづくりを目指します。



質問4 四蔵 和斗

町の選挙の投票率向上の取り組みについて

令和の選挙投票率で、半数近くの方が投票していません。「行くのが面倒」「政策がわかりにくい」などの理由が考えられます。投票率を上げるために、どのような取り組みをしていますか。身近なスーパーなどに投票所があると、買い物ついでに投票すると思います。

答弁: 選挙時の啓発活動として、防災行政無線、SNS・広報車による投票の呼びかけ、啓発グッズの配布、懸垂幕の掲示をしてきました。また、成人式でのパンフレット配布、志賀高校で出前講座をしています。

商業施設に投票所を増設することは、有権者の利便性を高め、投票機会の拡大に繋がる有効な手段です。スペース確保などの課題がクリアできれば、投票率向上のため、導入に向けて検討します。



質問3 曾根 春奈

原子力発電所の災害発生時の対応について

原子力発電は二酸化炭素を排出しないため環境に優しく、電力不足の問題もあるため、早急に運用を再開したらよいと思いますが、そう思わない人もいるでしょう。志賀原子力発電所の運用再開予定はありますか。災害発生時の対応について、生徒や町民に説明会を設けるとよいと考えます。

答弁: 日本の原子力発電所は、東日本大震災福島原子力発電所の事故後、法律が改正されました。志賀原子力発電所でも、北陸電力(株)が2号機の再稼働を目指し、防潮堤を建設したり、非常用ディーゼル発電機を新設しています。

原子力防災訓練は、町を中心に毎年実施し、原子力防災ハンドブック・避難所マップを各世帯に配布しています。

中学生対象の原子力防災説明会の開催も考えています。



質問2 澤田 怜

災害発生時の対応について

今まで大きな地震を経験したことがない私と同様、いつ起きるか分からない地震・災害に恐れている人がたくさんいると思います。町全体で避難訓練回数を増やしたり、地震対策セミナーをしてはどうでしょうか。

答弁: 大規模災害時「公助」だけでは被害を最小限に抑えることは困難で、「自助」「共助」が重要です。

町では、防災士の育成と自主防災組織の増加に努めたり、県民一斉防災訓練や出前講座、防災講演会を実施しました。

また住民自らが、地震・風水害などを想定した避難訓練に取り組んでいます。皆さんも、将来、防災士の資格取得や消防団に加入し、町の防災に携わってほしいと思います。

今後、学校でも防災セミナーを実施し、訓練などを通し、防災・減災の啓発に努めます。



質問9 森田 更紗

ふるさと納税について

令和6年度のふるさと納税額目標値として、1億円が設定されています。町出身者をふるさと納税の応援団として、関東・関西志賀町会の連携強化とありますが、それだけでは1億円が集まるとは思えません。本当に1億円が集まる考えなのか、聞かせてください。

答弁：ふるさと納税額目標値1億円は、令和元年度の実績額を元に設定しましたが、令和2年度は1億3,500万円、令和3年度は1億4千万円と、すでに目標値を超えています。

引き続き町外に住む町出身者にもふるさと納税をPRしますが、返礼品の価値や魅力によって納税に結びつくケースが多いことが調査で分かっているので、今後も返礼品を充実させ、全国の皆さんに応援していただけるように力を入れていきたいです。



質問8 大黒 敬太

子育て支援と若者の定住対策について

子育てにはたくさんのお金がかかるので支援を手厚くし、若い世代の移住が必要だと思います。新しい住宅地も整備していますが、どのように人口を増やす取り組みをしていますか。

答弁：妊婦・乳児健診助成、出産祝金を5～15万円、コロナ禍でさらに10万円支給しています。第3子以降の小中高等学校入学時に各10万円、子ども医療費無料、保育料の引き下げ・減免や園児のおかず代無料など、経済的負担軽減を図ってきました。心の支援としては、各種相談会や教室を開催し、県内でもトップクラスの支援を実施しています。

企業誘致で働く場所を確保し、利便性の高い場所に住宅地を整備し奨励金制度を設け、早期に完売しました。若者の定住対策として、今後も住宅地の整備を進めていきます。



質問7 油谷 侑祐

高齢者のフレイル予防について

コロナ禍の外出自粛などで、心身の健康維持が難しくなっている高齢者がいると思うので、町主体でフレイルを予防してほしいです。例えば、アプリで高齢者のウォーキングを推奨し、ミッションクリアで商品券がもらえるなどすれば、高齢者の健康と地域振興を同時に果たせます。

答弁：町では要介護者を減らし健康寿命を延ばす取り組みをしています。生活習慣の改善指導やフレイル予防講座・シルバーハビリ体操のほか、健康イベントを継続的に実施しています。

アプリは県の「いしかわスポーツマイレージ」アプリを町民にPRしていきます。

また国保と後期高齢者医療制度で、健康診断や人間ドック時の町スタンプポイント付与事業、介護予防ボランティアポイント事業を実施しています。



質問6 太川 あおい

上下水道の老朽化対策について

上下水道の大半は老朽化が進行していると考えられます。最近、地震の影響で水道管が破裂し、多くの地域で断水被害がありました。町の上下水道管の状況や、断水被害防止のため、どのような対策をしていますか。

答弁：整備から40年経過した老朽管は、令和元年度から管路の更新にとりかかっています。多額の費用がかかるため、優先順位をつけ、耐震管に更新したり、配水池でも耐震工事をし、計画的に整備しています。また平成30年に、寒波の影響で水道管が凍結破裂し大規模な断水に見舞われたため、給水車を導入し、緊急時に備えています。

下水道の経過年数は短く、更新予定はありませんが、将来的には、重要度や運営状況を考慮し更新を進めます。



質問13 松本 倖希

税金の使い道について

最近、とても物価が高くなってきましたが、商品の価格には含まれる税金の使い道が気になります。僕は、街並みを綺麗にするなど、町民にも良いことがあればと思います。税金の使い道に重点を置いている所はどこですか。

答弁：町民の皆さんが納めた貴重な税金を、町民生活を支える事業に充てて、住民サービスと福祉の向上に努めています。

中学生に身近なものでは、学校の建設・改修、PCや電子黒板、タブレットの整備、ALTの配置、通学定期補助などに使われています。

公園や観光地の整備、道路の植栽除草、空き家対策、海岸漂着ごみ撤去など、景観保全に努めています。また人口減少を抑制するため、住宅地整備、企業誘致、イベント開催などに重点を置いています。



質問12 中村 莉緒

コミュニティバスの本数の増加について

働く人の通勤手段になるようコミュニティバスの本数を増やすべきだと思います。本数を増やせば、中学生も登下校しやすくなります。またはスクールバスを出してほしい人もたくさんいると思います。

答弁：町のコミュニティバスは運転免許を持たない高齢者などの通院や買い物のため運行し、利用者数は年々減少しています。人口減少や運転する高齢者の増加が要因です。通勤者はメリットが大きいマイカーを利用しており、本数を増やしても利用増加見込みはなく増便は難しいです。

通学時のコミュニティバスの増便やスクールバスの運行は、近年の児童生徒数の減少で、対応は難しいです。

意見も参考にしながら、どのような運行形態がベストか、費用対効果の面と合わせて検討していきます。



質問11 桜井 郁人

農産物のブランド化について

ころ柿など農産物のブランド化が進み、観光客が高く買ってくれ、町としては良いことです。一方でころ柿が苦手な人、高額で買わない人もいるのではないのでしょうか。ころ柿以外のブランド化や、ころ柿の生産を増やし利益を出すため、町はどんな考えですか。

答弁：町の特産「能登志賀ころ柿」は県内や関西市場などに出荷しています。農林水産省のG1に登録されてから、海外にも輸出しています。

県の「百万石の極み」20品目にも認定され、町のふるさと納税返礼品にしています。ころ柿に関心を持ってもらい、後世に伝えたい考えです。

ころ柿以外の農産物では、町単独ではブランド化が難しく、世界農業遺産「能登の里山里海」のブランド力を生かした能登野菜として、出荷・販売しています。



質問10 堂高 空良

介護職の確保と町内医療機関の充実について

少子高齢化が進み、老人ホームの利用者が増加すると、介護職の負担や責任が増えます。介護従事者への配慮や待遇を改善し、働き手確保のためにどのような考えを持っていますか。また近所に眼科や皮膚科がないのでほしいです。

答弁：町では介護職員の資質向上や離職防止に向けた研修会の開催など、介護人材の確保に努めています。さらに介護資格取得費用を助成し、今後は介護職員研修会も検討しています。志賀高校では、福祉コースの生徒が介護職員初任者研修を受講しているため、町内介護関係の就職に繋がるよう期待しています。

町内医療については、医師の確保や採算性など多くの課題があります。町立富来病院に、眼科や皮膚科など9つの診療科があるので、受診を検討してみてください。